



こんにちは♪

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

民主苦小牧号外
2026年
3.1
No.1131



父

今回は、89歳で他界した父についてお伝えします。父は3年半前に腎不全を患い、人口透析を続けてきました。その後癌も発症し、入退院を繰り返しながら闘病生活を続けましたが、力尽きたように静かに目を閉じました。

子どもたちや孫たちが駆け付けると、父の顔は口角が上がり、亡くなった時と少し違って、笑っているようです。みんなが集まり、喜んでいるのだと思いました。

葬儀が終わり、父の家に子どもたちと遺品整理に行きました。「それぞれ欲しいものを持って行っていいよ」と、宝探しのように探索をしました。すると、父と母の結婚式の写真や、職場での旅行や宴会の写真、卒業アルバムまで出てきました。父が生きた歴史ですね。父も若い時があったんだと、あらためて感じます。

そして、父が小学校時代、中学校時代、高校時代の通知表も出てきました。どの時代も5段階評価の2と3ばかりで、先生のコメント欄には「明朗であるが、時々常識外れの行動が見受けられ落ち着きがない」などとあります。私が落ち着きがなく、勉強も嫌いだったのは、父の遺伝だとわかりました。

父は夕張で生まれました。一昨年の夏、父と一緒に生まれ故郷を見に行きました。もう家はなくなり、街もなくなっていますが、父は「ここにお父さんが生まれた家があったんだ」「ここに、風呂屋があって、そこに店屋があった」と、歩きながら教えてくれました。そして遠くを見つめ、当時の街並みを思い出しているようでした。帰り道、父が働いている頃、よく昼食で利用していたお蕎麦屋さんに立ち寄り、懐かしいお蕎麦を食べて帰路につきました。小さな親孝行ができたように思えます。

夕張を離れ苦小牧に来てからは、母と二人三脚でパン屋を切りもりした父でした。パンの移動販売車で流していた音楽のカセットテープも見つかり、子どもたちと聞きました。とても懐かしい反面、両親の苦労が蘇ります。父がお世話になった看護師さんが、「小野寺さんは木馬のパン屋さんだったんだね。私よく食べたんだよ。とても美味しかったよ」と言ってくれました。父から聞いたそうです。苦労した時代だったけど、父にとって良い思い出だったのかもしれませんが、父が作ってくれた家系図とともに、父との思い出を大切にしたいと思います。